

日本工業大学 専門職大学院

Nippon Institute of Technology
Management of Technology



終業後も間に合う、神保町駅徒歩1分

 **日本工業大学**

日本工業大学 専門職大学院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 TEL. 03-3511-7591

<https://mot.nit.ac.jp>

「技術」を強みに、経営で勝つ。

日本工業大学専門職大学院

「技術」を強みに、

物理的な「モノ」に限定せずに、ITやコンサルティング業などの非製造業も網羅した
広義のコア・コンピタンス



日本工業大学
学長 竹内 貞雄

日本工大MOT「DX時代の井戸端会議の役割」 中堅・中小企業の実践的企業・技術経営を学ぶ

生成AIの登場により、企業経営は激動の時代を迎えています。AIは業務の生産性を高め、専門家顔負けの資料を瞬時に作成してくれますが、その答えはすでに世界で共有された情報であり、そこに真の新規性はありません。これからのビジネスにおいて本当に価値をもたらすのは、AIの学習対象外である「言語化されていない暗黙知」です。日本工業大学MOTでは、現役の院生、修了生、そして教員が集い、分野を越えた情報交換を行う「MOT倶楽部」が活発に活動しています。

これはまさに、生きた知識と現場のリアルな課題が交差する「DX時代の井戸端会議」です。異業種・異職種の人々が集い、新たな発想を相互に刺激し合える環境こそが本MOTの最大の魅力です。次代の中堅・中小企業を牽引するイノベーションを生み出すため、実践的な技術経営を学ぶ当研究科であなたも共に学びませんか。

経営で勝つ。

技術をレバレッジとして機能させる経営者・リーダーの視座を養い、
技術というアセットから顧客価値を導出し、経営全体を勝利へ導く戦略的思考&実践力



日本工業大学
大学院技術経営研究科
研究科長 三宅 将之

互学互修の環境、未来への構想で「制約」を突破し、 技術を「価値」へと結実させる

日本の製造業は高い技術力を持ちながらも、それを持続的な収益に結びつける「価値獲得」の壁に直面しています。日本工業大学MOTでは、単なる知識の習得にとどまらず、技術を確かな経済的価値へと転換し、自社のビジネスモデルを再定義する「未来への構想力」を持ったリーダーを育成します。最大の特色は、教員・院生・修了生がフラットに教え合い、学び合う「互学互修」の環境です。多様な実務家が集い、現場の「実践知」と大学の「理論知」を対話を通じて融合

させることで、一人の思考では到達できないイノベーションを生み出します。また、実習やフィールドワーク授業などの徹底した「現場主義」を貫き、修了後も「生涯学習のハブ」として皆様の実践をサポートし続けます。経営資源の「制約」は、リーダーの構想力と共感を呼ぶ実行力で必ず突破できます。新たな時代の扉を、当研究科で共に拓きましょう。

理論と実践を融合した技術経営人材育成プログラム

技術経営人材を育成する教育プロセス（学びの進め方）

技術という独自の強みを起点として、持続可能な企業経営へ昇華する戦略的変革プロセス

出発点：技術を強みに

STEP 01 技術の特定

社内の潜在的な強みや暗黙知を可視化し、競争力の源泉を見極めます。

STEP 02 技術の強化

特定したコア技術へ資源を集中し、自社の強みになるレベルへ研ぎ澄まします。

STEP 03 技術の活用

強みを持つ技術をベースに、高付加価値な製品や新サービスへ応用展開します。

到達点：経営で勝つ

STEP 04 経営の構想

部分最適な現場視点から、財務・組織を見据える全社最適な視点へ視野を拡張します。

STEP 05 事業価値の創出

技術優位性を高い利益率へと転換するための持続可能なビジネス構造を設計します。

STEP 06 競争優位の確立

「技術力×組織力」を仕組み化。コモディティ化から脱し、差別化ポジションを築きます。

私たちの使命は、中堅・中小企業の成長の鍵となる「技術経営（MOT）人材」を育成し、企業の持続可能なイノベーションを支援することです。

実践力のある技術経営人材を育むMOT教育の4つの柱

本学のMOT教育は、「継続学習」「経験学習」「実務家教員」「エコシステム」の4つを柱に、理論と実践を融合し、イノベーションを創出し実践できる技術経営人材の育成を実現します。



日本工大MOT 5つの特長

中堅・中小企業の技術経営人材を育成 ～我が国で唯一～

キャリアアップを目指すビジネスパーソンを対象に、技術経営人材の育成を目指したコース、カリキュラムを用意しています。中堅・中小企業に焦点を絞った専門職大学院は我が国で唯一のもの。中小企業経営的視点からのマネジメントが役立つことから、中堅・中小企業に限らず、大手企業、独立行政法人など多くの企業、組織の在職者も学んでいます。

働きながら1年間で修士号取得&5年間MOTの継続学習も可能

多忙な社会人が働きながら学べるように、講義は平日夜間と土曜日に行います。科目等履修生制度（奨学金給付制度あり）を活用すれば、入学前の1年間、入学して院生として1年間、修士号取得後も修士生として3年間、最長5年間MOTを学ぶ機会が得られます。その後も、MOT倶楽部に参加して、さまざまな新しい知識、考え方の学習、研究を継続することもできます。

実務に役立つ高度な実践的専門知識を経験学習により習得

実例やケーススタディを重視する授業では、実務問題解決型指導、魅力的なゲストスピーカー（現役経営者など）の招聘などによって実践的な知識を身につけることができます。授業におけるグループ演習や相補的啓発を意識した活発な議論は、実践力やコミュニケーション力を養うばかりでなく、「技術経営に関する価値観の共有化」を進め、院生同士や教員との繋がりを深める役割も果たしています。

豊富な経験の実務家教員と濃密な学びを実現

実践的な経験と知識、ノウハウを持つ実務家を中心とする11名の専任教員と、30名を超える客員教員の配置により、濃密な学びを実現。経営者や実践者として多様な経験を積んできた教員による授業内容は、体系的理論だけではなく、今日から使える実践的な知見を網羅しています。また特定課題研究(修士論文)は、実際の企業や組織、起業における課題などをテーマとして、3名の教員と一緒に創りあげていく実践的な成果となります。

異業種・職種の学ぶ「志」の強い方とのエコシステム構築

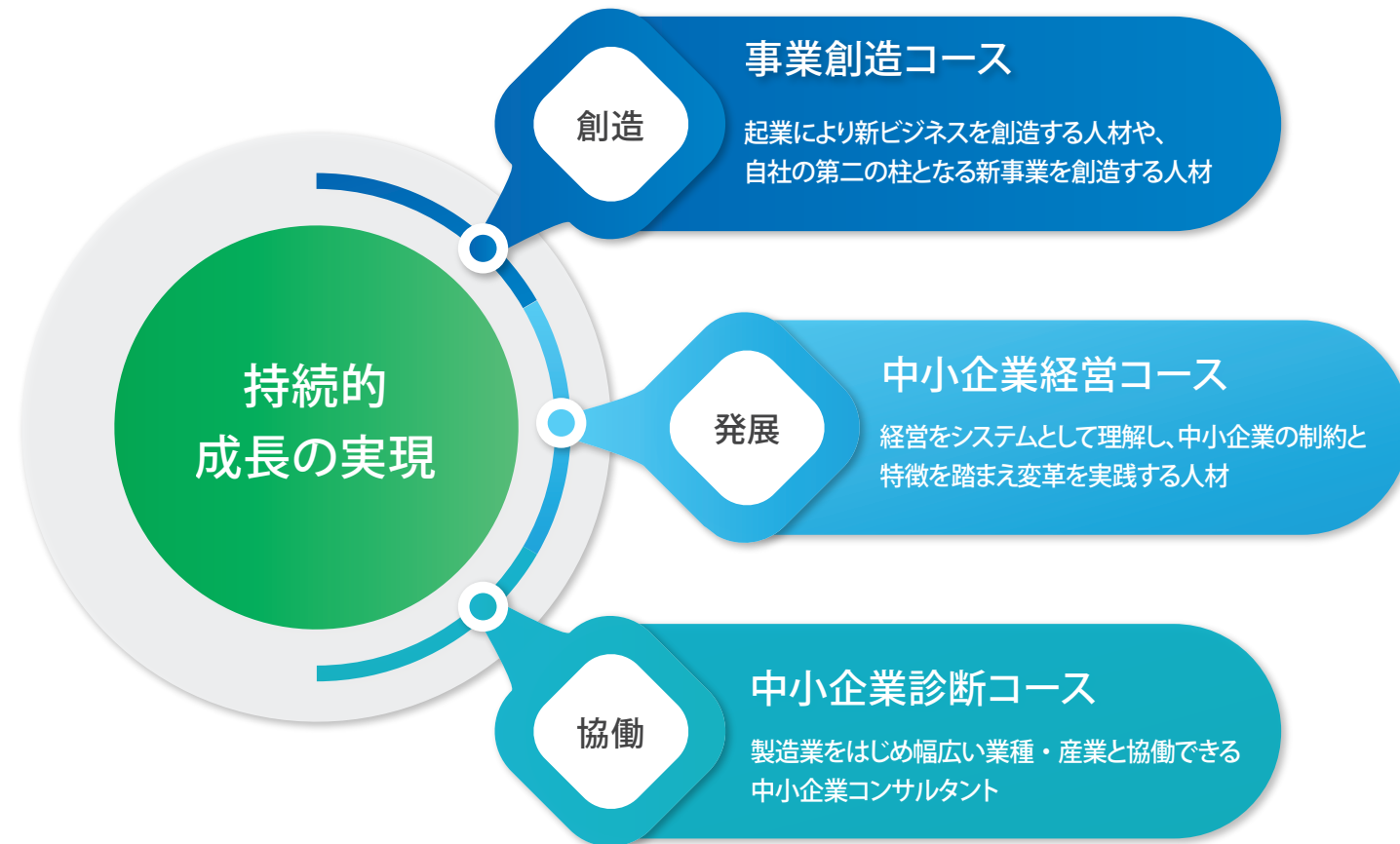
院生は多様な業種・職種、学歴・経歴、年齢層からなり、同期生間の交流がそのまま世代・異業種・異職種交流になり、通常の大学院や授業だけでは得られない発想や意見交換ができます。大学卒業後5年以上の実務経験を有する人を対象にしていますが、非大卒者でも、短大・高専卒は7年以上、高卒は9年以上の実務経験があり、十分な知識と実績を有する人は資格認定審査を受けて認定されれば出願することができます。

技術経営（MOT：Management of Technology）とは、一言でいえば「技術を活かした経営」です。すなわち「技術に立脚する事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけ、経済的価値を創出していく経営」です。

目指すキャリアで選ぶコース紹介

日本工大MOT 3つのコース

将来のキャリア構築のための3つのコースがあり、自分の方向性に合致したコースを選択することができます。



事業創造コース

起業や従来事業に代わる第二の柱となる新事業創造を実現するために、自己実現をベースにした経営理念・目標、中長期ビジョンを持ち、その実現のための戦略・戦術を立案します。更に、立案した戦略・戦術を実行するために、外部資源を活用できるネットワーク力も持つイノベーター、アントレプレナー人材を育成します。

中小企業経営コース

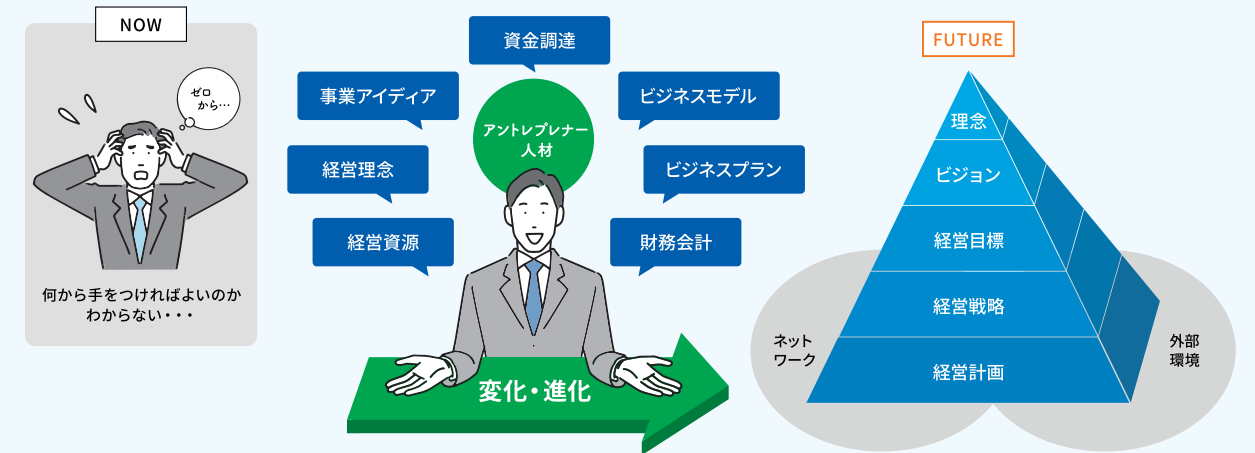
技術経営の両輪とも言える「プロセス・組織を通じて経営資源を活かして戦略を実現する組織経営」と「アイデアを経済的価値とする価値創出活動」を基本に、中堅・中小企業の制約を理解しながらその特徴を活かす技術経営を実践するビジネスリーダー人材を育成します。

中小企業診断コース

診断先中小企業の経営全体を見渡し、外部環境の変化が企業経営に及ぼす影響を踏まえ、その経営戦略と経営計画を立案します。加えて、コミュニケーション力により対象とする中小企業の改革すべき方向性について、その中小企業とともに検討し実行支援できる企業経営コンサルタントを育成します。

事業創造コース

こんな方に：起業／第二の柱となる新事業を志す方（技術職・IT・サービス・飲食・個人事業まで）
得られる力：理念→目標→計画／戦略・戦術／実行力／外部資源活用
期待効果：イノベーター・アントレプレナー人材へ



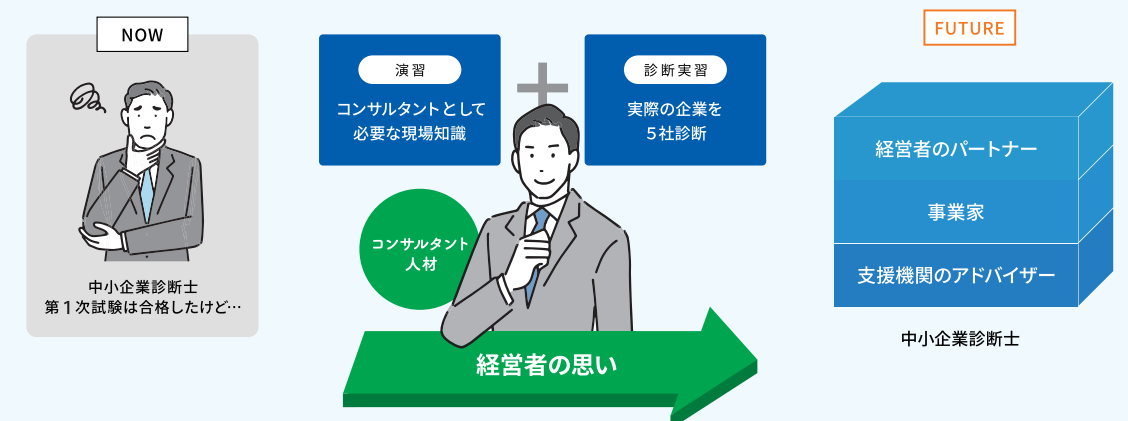
中小企業経営コース

こんな方に：技術・技能・イノベーションを活かしたい経営者・幹部・組織リーダー
得られる力：技術／イノベーション・組織経営の体系知／価値創出
期待効果：柔よく剛を制す技術経営を実践する人材へ

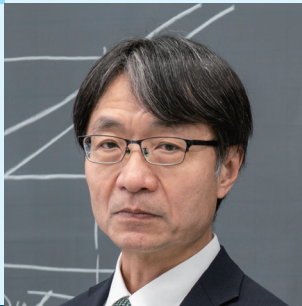


中小企業診断コース

こんな方に：診断士として独立／支援機関・金融機関・公的機関で支援に携わる方
得られる力：経営全体の把握／戦略・計画立案／コミュニケーション
期待効果：実行支援できる企業経営コンサルタントへ



専任教員紹介



日本工業大学MOT修了
東京科学大学大学院博士後期課程在籍

主な担当科目

- ・経営工学特論
- ・技術戦略と技術マネジメント
- ・技術・社会の展望と企業倫理

担当特定課題例

- ・高付加価値なカスタマイズ事業の持続安定性の向上
- ・成熟化前の中小企業におけるBCP策定の支援方法に関する研究－中小企業のBCP策定率の向上－

浅見 哲也 教授

Tetsuya Asami

国内電機メーカーで半導体デバイス・プロセスの研究開発に従事した後、半導体CMOSイメージセンサの研究開発会社を創業。約30年にわたる研究開発経験を基盤に、研究開発型企業の経営者としてMOTの知見を実践し、専門性の高い技術を有する経営者の育成に取り組んでいる。



東京大学大学院工学系研究科修了
米国Harvard Business School PMD修了博士（工学）

主な担当科目

- ・研究・製品・事業開発プロセス論
- ・価値創造とイノベーション論
- ・デジタルMOT人材育成論

担当特定課題例

- ・重電設備における暗黙知の形式知化に関する研究
- ・バイオ医薬品製造における地球温暖化対策に関する研究

岡本 和也 教授

Kazuya Okamoto

大手精密機械メーカーにて開発部門長、米国現地法人副社長を歴任し、光集積半導体および先端半導体製造・検査装置の新事業開発を統括、研究開発、知財、事業戦略を融合した経験を基に半導体システムおよび新事業創成論の研究を推進。大阪大学招聘教授を兼務。学振・研究開発専門委員長を経て内閣府有識者委員として科学技術・産業政策にも参画。



上智大学文学部卒業
米国シカゴ大学ビジネススクール修了（MBA）

主な担当科目

- ・「世界最先端の技術経営とマーケティング戦略」
- ・「マーケティング応用」
- ・「企業価値経営論」

担当特定課題例

- ・船用アンモニア燃料市場の形成メカニズム
- ・ガレージブランドにおけるオーセンティックアイデンティティ

田中 道昭 教授

Michiaki Tanaka

日米欧の金融機関に長年勤務後、戦略コンサルティングの仕事に従事。小売、流通、製造業、サービス業、医療・介護、金融、証券、保険、テクノロジーなど多業種に対するコンサルティング経験をもとに、TV・新聞・雑誌・ウェブメディア等でも発信。主な著書に『GAFA×BATH』『フィジカルAIの衝撃』等。専門はストラテジー & マーケティング。



早稲田大学理工学部卒業
日本工業大学MOT修了、立教大学ビジネスデザイン研究科修了（MBA）

主な担当科目

- ・ネットワーク型事業創造
- ・コンサルタントの思考法
- ・起業と中小企業変革のケーススタディ

担当特定課題例

- ・働く女性向け新事業
- ・中国における日本風建築内装事業

五十嵐 博一 教授

Hirokazu Igarashi

清水建設勤務を経てコンサルタントに転身。自営業で起業支援、中小企業の経営支援、事業再生、デューデリジェンス、Mott MacDonaldで技術コンサルタント業務などに従事。技術と経営をつなぐ橋渡し役としての経験が豊富。著書「電気設備が一番わかる」「起業のお値段」「合同会社の設立運営ができる本」ほか。



早稲田大学第一文学部卒業
日本工業大学MOT修了、金沢工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科修了

主な担当科目

- ・マーケティングと営業の基礎
- ・デジタル&C2Cマーケティング

担当特定課題例

- ・中小醤油製造業における価値創造および高価格提供を実現するマーケティング活動に関する研究
- ・暗黙知の共有が、営業の「活動効率」と「顧客への提案」に与える影響の実証研究

リクルートで法人営業を経験した後、グーグルへ転職し、広告製品のマーケティングに従事。その後IT系スタートアップ企業を共同創業、取締役COOとして営業、マーケティング、経営管理部門を立ち上げ管掌。日本経済新聞社へ株式譲渡後退任し、現在は経営・マーケティングのコンサルティングをおこなう他、複数の上場企業の社外取締役を務めている。



慶応義塾大学経済学部卒業
米国Duke大学Fuqua School of Business修了(MBA)

主な担当科目

- ・リーダーシップと人事の仕組み
- ・組織開発
- ・コーチングスキル

担当特定課題例

- ・次世代技術者を育成するための社会人学校のビジネスプランの提案
- ・化粧品業界の異業種参入動向調査と、異業種参入を活性化させる為のワークフロー構築

金融機関において、為替やデリバティブ商品のトレーダーやリスク管理業務に従事した後、米系人事コンサルティング会社において、内資外資企業を問わず、多様な業界において人事制度構築・リーダー育成・アセスメント・組織開発などのプロジェクトに参画。製薬会社などの人事部門において、人事部長などのポジションを歴任。



明治大学大学院経営学研究科博士課程修了博士（経営学）

主な担当科目

- ・新製品事業アイディエーションとビジネスモデル
- ・ビジネスプランニング
- ・オペレーションマネジメント

担当特定課題例

- ・中小製造業における思考業務の構造化と業務改革に関する研究
- ・中小企業に対する開発支援型シェアラボの事業創造

石井 宏宗 教授

Hiromune Ishii

サンシングループ代表、ICTマネジメント研究会理事長。専門は管理会計、新製品事業開発、MPT-Lモデル、他。四半世紀以上にわたり中小企業経営、企業再生、事業承継、新規事業開発、NPO活動等に携わる。実務・研究・教育の三領域を往還し、学術論文・書籍多数。学会賞等を受賞。次世代人材の育成と実践知の社会還元にも取り組む。



法政大学大学院イノベーションセンターマネジメント研究科修了

主な担当科目

- ・経営計画の策定
- ・ファミリービジネスの事業承継
- ・創業・ベンチャービジネスモデル構築支援と国際化

担当特定課題例

- ・中小零細繊維生産企業の支援に向けた実地調査とその研究
- ・外国人で活性化する「ゲンバ」へ定着から組織活性化に向けた取り組み

小林 克 准教授

Suguru Kobayashi

地域金融機関、薬品メーカーを経て、中小企業診断士資格を取得。その後、複数の中小企業支援機関において企業支援に従事。独立後は、小規模事業者から大企業まで幅広い顧問先支援を行うとともに、地域金融機関の顧問としても現場での支援を継続している。



慶応義塾大学商学部卒業
東京都立大学MBA修了、後期博士課程在籍（経営学研究科 ビジネス・イノベーション専攻）

主な担当科目

- ・中小企業の成長とイノベーション
- ・日本の経営と中小企業事業システム
- ・製造システムの管理・改善

担当特定課題例

- ・中小製造業における例外的価格意思決定が必要とされる場合のダイナミックプライシング手法の研究
- ・中小企業における社内ベンチャー型子会社の成長プロセスに関する研究

小井川 明良 教授

Akiyoshi Oikawa

中小企業診断士。総合商社から製造業（鉄鋼、機械メーカー、金属加工、医薬品、ブランド）、リサイクル業と幅広い業界の経験と知識を有す。業務では、新事業開発、国内営業、海外展開、経営企画、M&A及びグループ会社管理の造詣が深い。中小企業コンサルに強みを持ち、自身の企業で理論と実践の融合を試み、真に役に立つ経営学の確立を目指す。



京都大学工学部合成化学科卒業

主な担当科目

- ・中小企業技術経営概論
- ・経営戦略の形成
- ・経営システム構築

担当特定課題例

- ・DX・AI時代におけるこれからの製造業向け基幹システム
- ・中小製造業の事業変革とその支援を通じたサステナビリティへの貢献

エンジニアリング企業で設計に従事後、技術と経営のコンサルティング企業で、グローバル・国内の製造、IT、技術系サービス企業の戦略、技術、組織等の課題解決を25年間行う。現在は、大手IT、中小素材や中国大手自動車部品企業の社外取締役・監査役・アドバイザーや、核融合、海運・造船、全固体電池関連のプロジェクトにも従事。



京都大学経済学部卒業
英国ロンドン大学経営学修士修了（MBA）

主な担当科目

- ・企業会計・ファイナンス基礎
- ・デジタル変革概論
- ・フィールドワークⅠ・Ⅱ

担当特定課題例

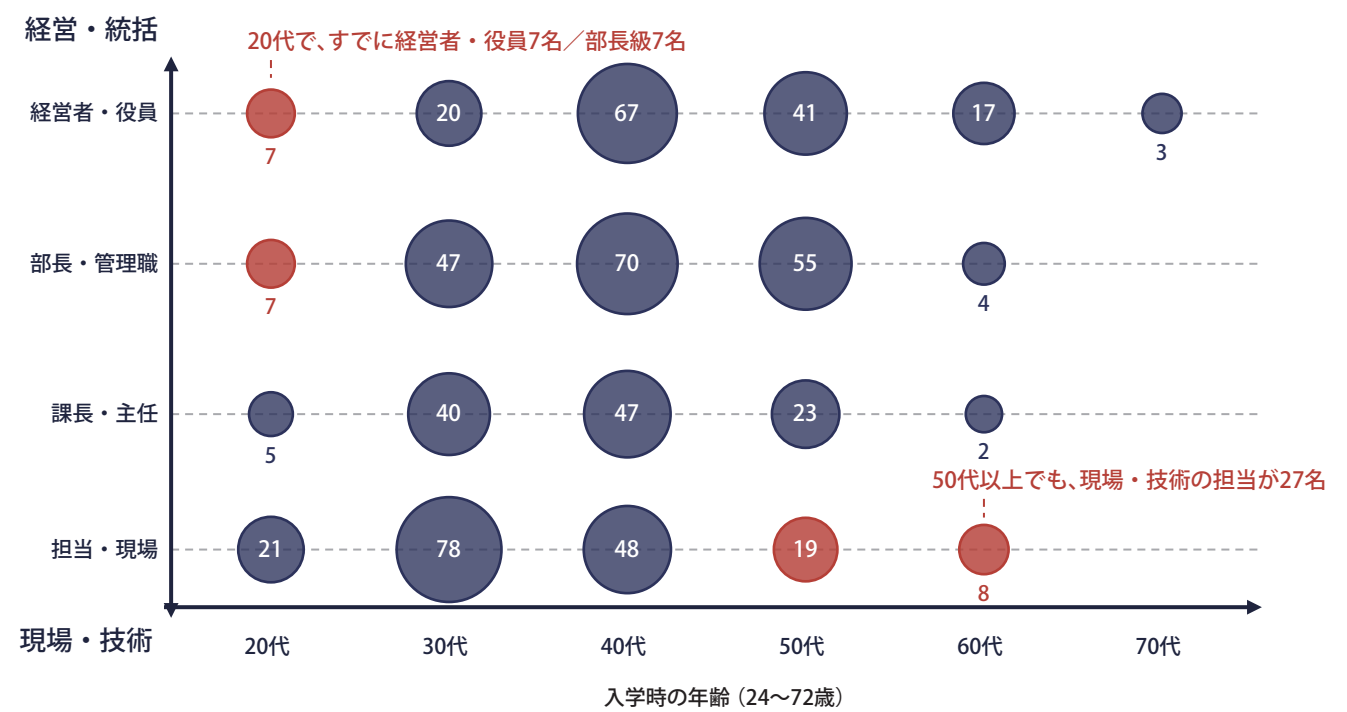
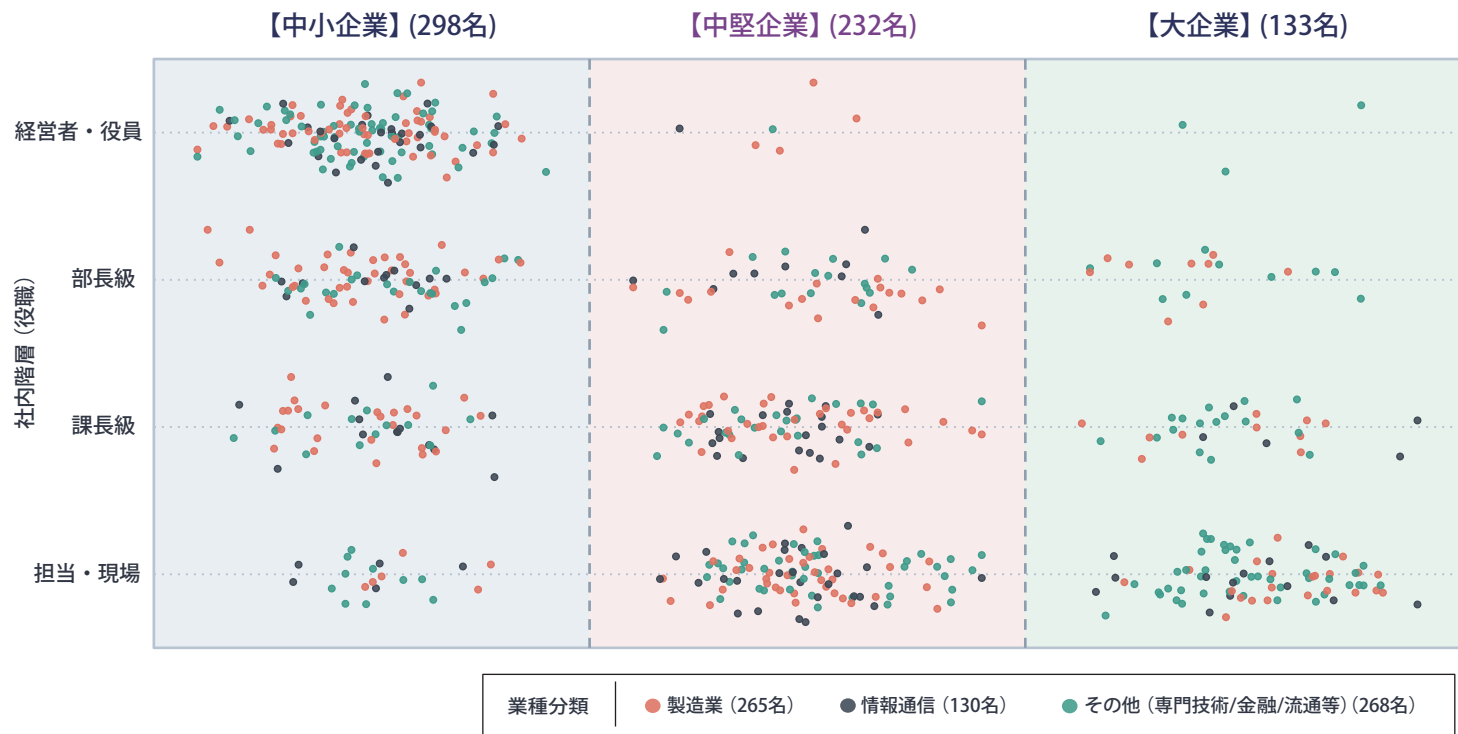
- ・第二の創業への挑戦 ～経営と現場をつなぐ中核機能～
- ・イタリアのもののづくりに学ぶ意味的価値創造とミドルウェアとしての中小企業診断士の新たな役割

日本興業銀行での企業審査・事業金融（国内外にて企業融資・証券業務）、並びに野村総合研究所主席コンサルタントとして情報システム関連の事業企画（ERM関連調査研究と新規事業開発を主導）などの業務を経験、ワークスアプリケーションズ 取締役CFO、ガートナージャパン・シニアエグゼクティブパートナー、日本価値創造ERM学会会長などを歴任。

交わる、気づく、進化する。多様な人材が刺激し合うMOT

MOT第1～22期生（663名）のデータが示す通り、幅広い年齢層（20代から70代）と階層、様々な業種の多様なバックグラウンドを持つ人材が同じ教室で学び、活発に議論を重ねます。

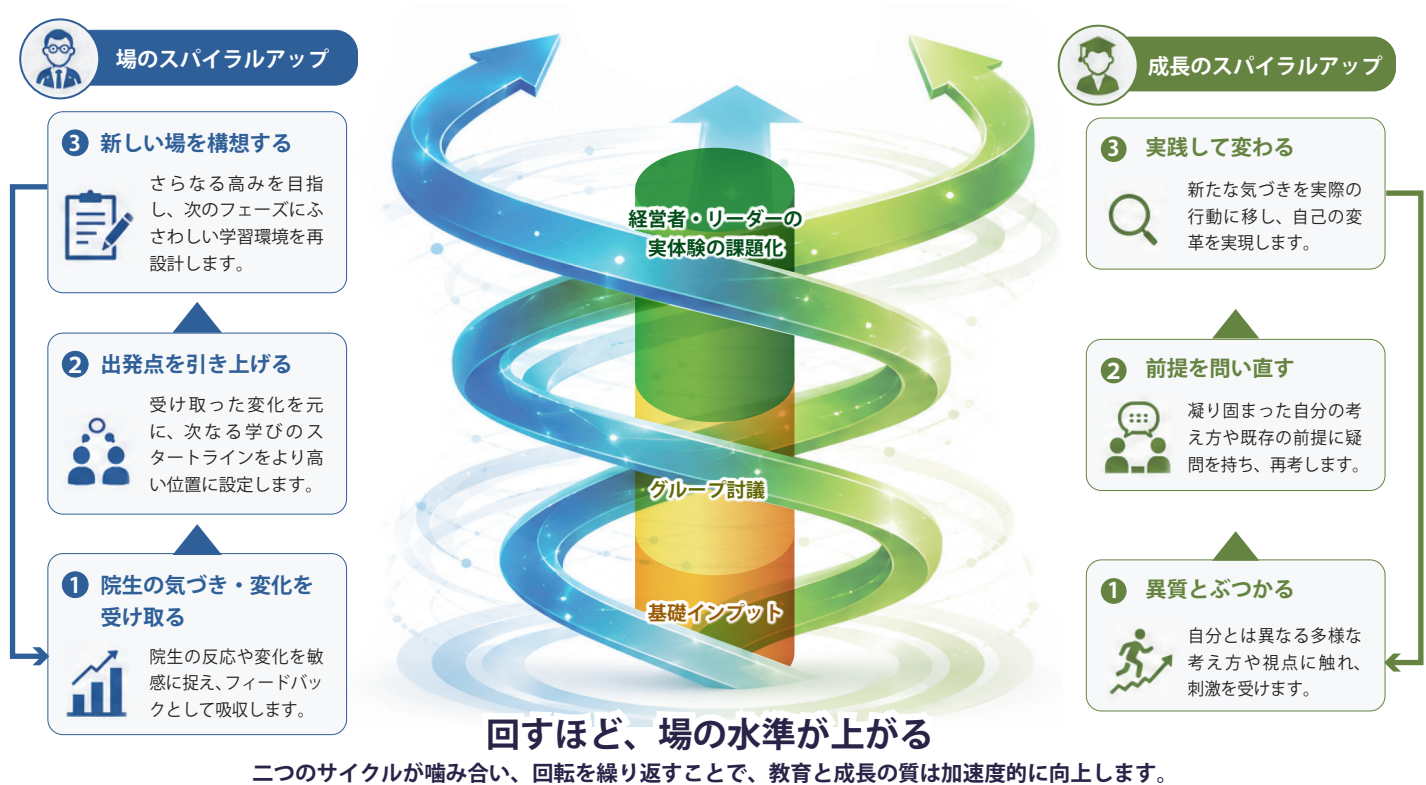
立場の違いを越えた『本気のディスカッション』こそが、最大の学びになる。



教員と院生による学びのスパイラルアップ

二つの知が交わり、共に進化する。

教員と院生は、それぞれの知と経験を深化・進化させながら、ときに交わり、共創する。その相互作用とシナジーが、双方の成長を加速し、新たな知と価値を生む。



教員：場のスパイラルアップ
(気づき・変化を受け取り、場を高めるサイクル)

院生：成長のスパイラルアップ
(異質との出会いから気づきを得て、行動し、成長していくサイクル)

修了生の声

山代佳子さん
2015年度生
totoka<トトカ>代表

多様な院生と学ぶ実践的なカリキュラム

日本工大MOTのカリキュラムは「多様性」と「実践」が強みです。同期生は、20代～70代まで幅広く、スペシャリストや経営者、中小企業から大企業とまさに多様な人材の集まりでした。授業では、まず基礎をしっかり学び、座学だけではなくゲストスピーカーによる実体験を議題にしたグループディスカッションが度々行われました。各人の異なる視点から、目から鱗のアイデアが生まれることもあり、多様性によるイノベーションを実感すると共に、これまでの考え方がいかに凝り固まったものだったかを知るきっかけとなりました。また、学ぶだけではなく、学んだことを活用・実践することが大切であり、実践する具体的な方法についても丁寧に教えていただきました。多様な視点と実践的なアプローチについて学んだことは、私の一生の財産となり、現在の経営に大いに役立っています。

Acquisition

春学期 認識転換

🚩 成長ステージ目標

技術を経営視点から捉え直すための理論・概念の徹底吸収

- 理論の枠組み構築と基本理解
- 自らの仕事への落とし込み

🔗 短期目標と知識・思考

経営理論の体系的理解

- 全般の基礎知識と論理的思考
- 他社ビジネスモデルを読み解く分析力

📁 特定課題&研究手法

課題取組の意味合い・方向性探索

- 指導：メンターによる並走
- 手法：座学、職場実践、ゲスト講義

💡 自信の源泉

MOTの体系的基礎知識

Internalization

夏学期 構造的理解

🚩 成長ステージ目標

自社事業・自社技術の構造理解、本質的課題と解決策の抽出

- 理論と自社分析の「架け橋」
- 複数解決策アプローチの獲得

🔗 短期目標と知識・思考

自社・業界の理論的分析

- 応用知識と論理・概念的思考
- 先行コンサル手法のフレーム活用

📁 特定課題&研究手法

課題の深掘り・特定と研究の決定

- 指導：主査候補教員の選定
- 手法：事例分析、職場実践、演習

💡 自信の源泉

MOT知識&実践スキル

Integration

秋学期 提案設計

🚩 成長ステージ目標

技術・人・組織・市場をシステム思考で統合設計する実践提案

- 多様な知見を統合した事業構想力
- 独自ビジネスモデルの構想・設計

🔗 短期目標と知識・思考

技術・組織・市場の統合設計

- 応用・発展&システム思考
- 競争均衡ビジネスモデルの構造解明

📁 特定課題&研究手法

アプローチ確立、中間報告の実施

- 指導：主査&副査による中間指導
- 手法：ケース、応用・発展実習

💡 自信の源泉

MOT活用能力（自立レベル）

Innovation

冬学期 実現・変革

🚩 成長ステージ目標

組織や社会に対する強固な実践価値提案と実務での成果転化

- 経営変革・新事業創出の牽引
- 自己の真の価値実現プロセスの設計

🔗 短期目標と知識・思考

変革リード&極大化の実践

- 実務で完全に自走可能な応用力
- 優位な独自ビジネスモデルの完成

📁 特定課題&研究手法

特定課題研究の完成と最終報告

- 指導：主査&副査による最終審査
- 手法：独自提案・実践的活用

💡 自信の源泉

自己価値実現&確固たる変革力

日本工大MOT 独自のエコシステム



教員

- メンター（教員&AI）による伴走支援
- 主査・副査による特定課題研究指導



修了生

- 修了生企業への訪問
- 修了生主催の各種研究会への参加

- ゼミOBとしての特定課題研究フィードバック



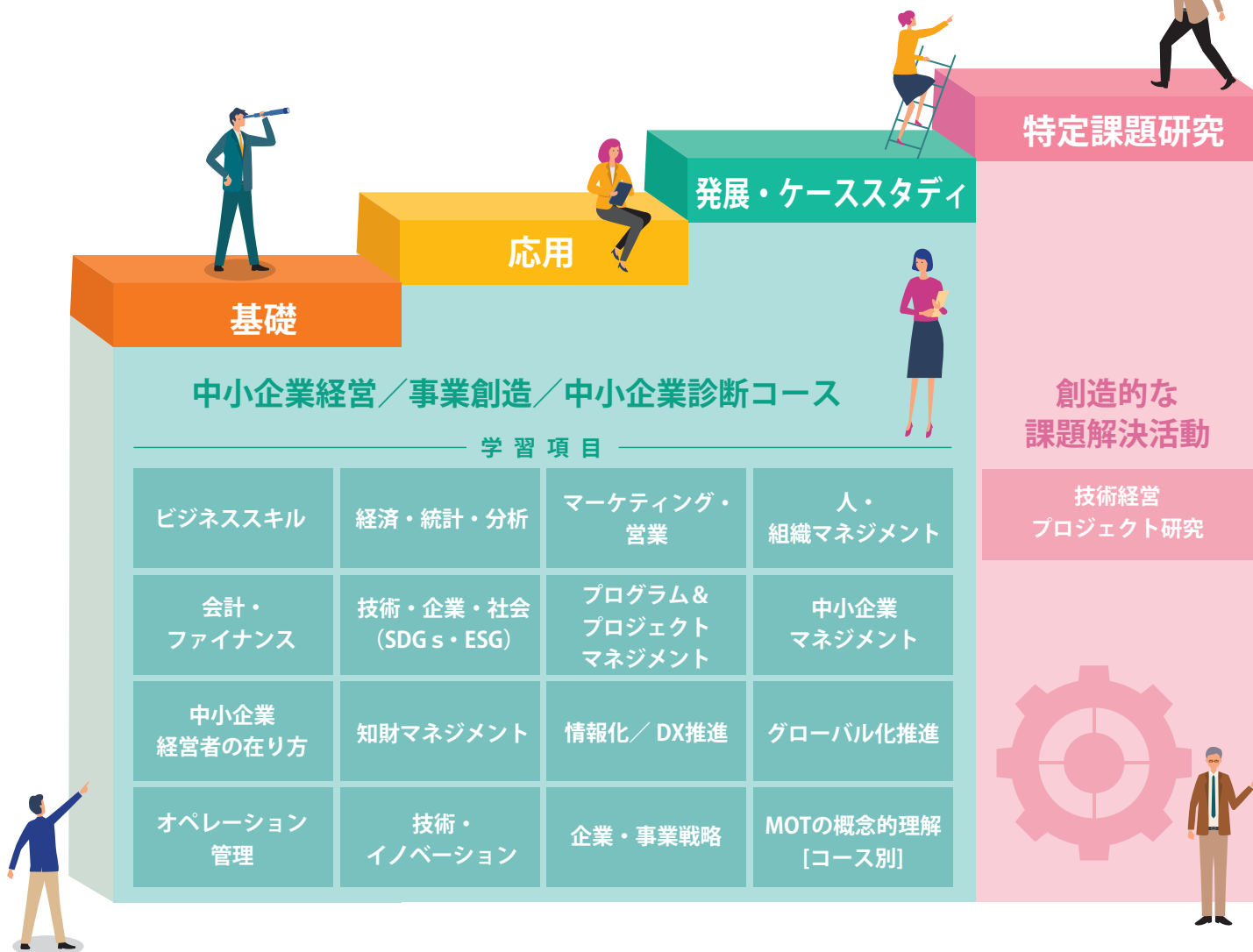
組織

- 中小企業イノベーションセンターを通じたビジネスイノベーション
- 特定課題の永続的成果を検証できるMOT大賞

1年で自身を次のステージへ導くカリキュラム

日本工大MOTのカリキュラム構成

日本工大MOTのカリキュラムは、学習項目ごとに「基礎」「応用」「発展・ケーススタディ」の3ステップで、実践力を高めていきます。基幹／総合・実践科目とコース基本／重点科目で構成されており、3つのコースの想定する人材像となるためにバランスよく学びを深めていきます。



知識から実践、そして価値創造へ イノベーションを育む段階的な科目群

基礎科目	
リーダーシップと人事の仕組み	①
中小企業の成長とイノベーション	①
プロジェクトマネジメント基礎	①
企業会計・ファイナンス基礎	①
マーケティングと営業の基礎	①
技術・社会の展望と企業倫理	①
デジタル変革概論	①
オペレーションマネジメント基礎	②・⑥
中小企業技術経営概論	②・⑥
ネットワーク型新事業創造	④・⑥
研究・製品・事業開発プロセス論	⑤・⑥
ビジネスエコノミクス	⑥
データ分析と統計解析基礎	⑥
中小企業のグローバル展開	⑤・⑥
中小企業の知財基礎	④・⑥

応用科目	
企業価値経営論	①
新製品事業アイディエーションとビジネスモデル	④・⑥
世界最先端の技術経営とマーケティング戦略	⑥
経営システム構築	②・⑥
マーケティング応用	⑥
価値創造とイノベーション論	②・⑥
技術戦略と技術マネジメント	③・⑥
日本的経営と中小企業事業システム	③・⑥
ビジネスプランニング	④・⑥
組織開発	⑥
デジタルMOT人材育成論	⑤・⑥
デジタル&C2Cマーケティング	⑥
コーチングスキル	⑥
論理思考と問題解決スキル	⑥
標準化戦略	③・⑥
オペレーション変革推進	⑥

発展・ケーススタディ科目	
プロジェクトマネジメント応用	①
起業と中小企業変革のケーススタディ	③・④・⑥
ファミリービジネスの事業承継	②・⑥
MOTフィールドワークⅠ	【新設】
MOTフィールドワークⅡ	【新設】

特定課題研究	
技術経営プロジェクト研究Ⅰ	
技術経営プロジェクト研究Ⅱ	

凡例 (区分分類)
 ① 基幹科目 ② 中小企業経営コース基本科目 ③ 中小企業経営コース重点科目
 ④ 事業創造コース基本科目 ⑤ 事業創造コース重点科目 ⑥ 総合・実践科目

注) 特定課題研究を除いて、中小企業経営／事業創造コースの科目のみを掲載

授業時間帯

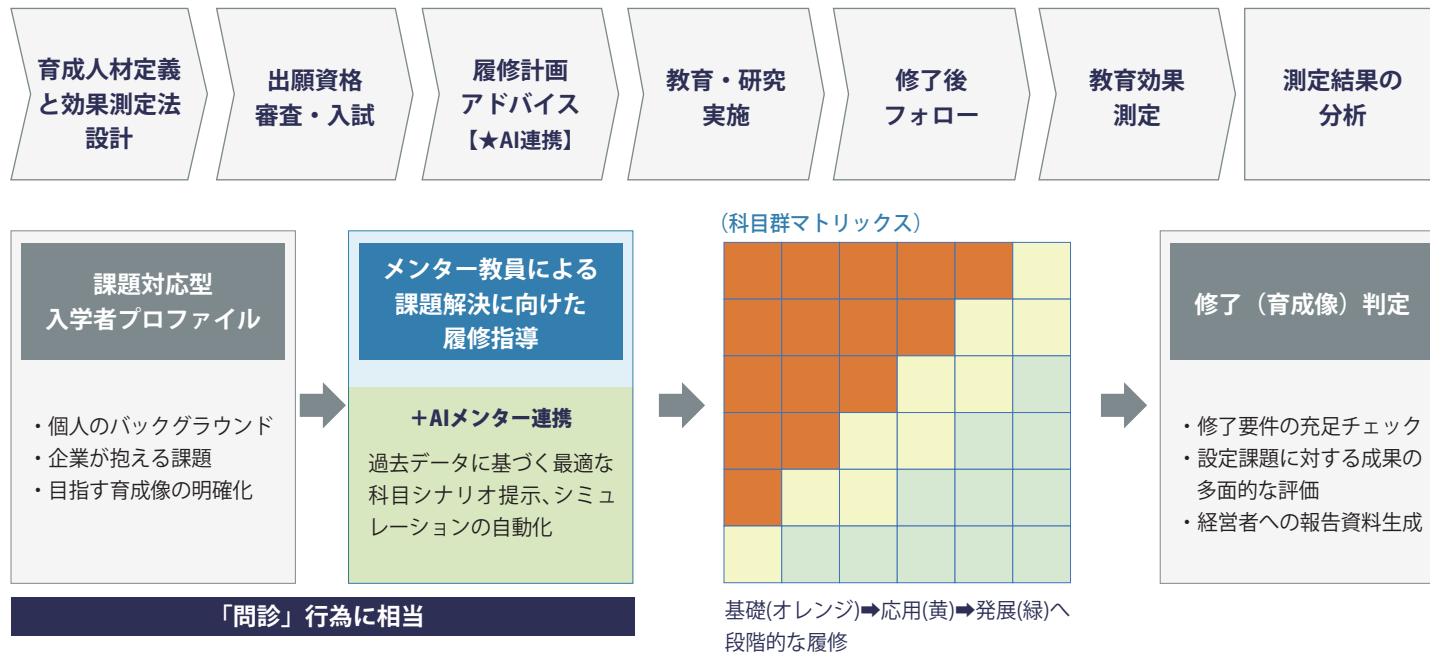
月～金曜日						1時限	2時限
						18：30～ 20：00	20：10～ 21：40
土曜日	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
	9：30～ 11：00	11：10～ 12：40	13：30～ 15：00	15：10～ 16：40	16：50～ 18：20	18：30～ 20：00	



教員 × AI の手厚いダブル伴走で、 1年間の学びを完走へ！

メンター制度

入学時点から専任教員がメンターとなり、更にAIメンターも活用して、充実した1年になるように伴走していきます。



AI メンターのコア機能

- ・24時間いつでも瞬時に「問診・相談」に対応
- ・受講生の関心テーマから最適なパターンを推薦
- ・仕事との両立を踏まえた学習スケジュールの調整など、日々成長中



教員メンターの役割

- ・AIが生成した客観的な履修データを基に、より深い「対話」に集中
- ・受講生の個別課題（企業固有の経営課題）に対する経営視点での指導
- ・モチベーション維持のための1on1や各種サポート
- ・派遣企業の経営者との合意形成とネットワーキング



MOTフィールドワーク

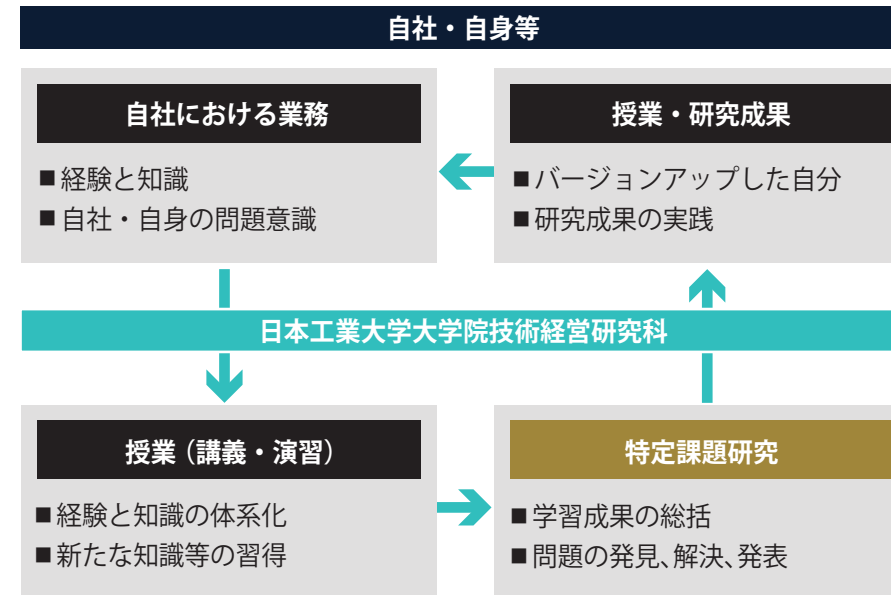
「技術」を強みに、経営で勝つ」の実践を体感するために、MOTフィールドワークというクラスがあります。修了生の企業を実際に訪れて、単なる知識の習得に留まらず、こうしたフィールドワークを通じて「理論を実務で使いこなす力」を養う機会を提供しています。



自社・自身のリアルな課題を解決し、 ビジネスを次のステージへ導く実践的研究

特定課題研究

主査と副査（計3名）で、課題を機会に進化させます。



一人ひとりの経験・知識は授業を通して体系化され、多様な角度から検証されていきます。さらに、秋学期（10月～）・冬学期（2月～）の6ヵ月間にわたり、修士論文に相当する「特定課題研究」において学習成果を総括し、個々の課題解決に取り組みます。そのなかで、自社・自身の飛躍、ビジネスへのフィードバックが図られています。

特定課題研究は、修了後も実践・進化していきます

日本工大MOT大賞

特定課題を修了後に実践して、実際に「経営で勝っている」事例に対して日本工大MOT大賞を授与しています。以下の事例は一例です。

- 毎月現場職人と課題を語り合い、改善につなげる取り組みを主催し、自社のみならず、同業他社からも参加するまでに広がり、塗装工事業界における技術の継承と向上のための共創の場として大きな価値を生み続けており、人材育成と企業の活性化に大きく貢献。

日本工大学MOT 中小企業イノベーションセンター

修了生の多様性を活かした修了生相互の連携による新技術・新製品の開発や新事業・新形態の創造、コンサルティング能力向上等のエコシステム形成に係る支援事業を行います。

- 包括提携をしている城南信用金庫と西武信用金庫とともに、特定課題研究成果事業化促進事業における「ビジネスイノベーション賞」を毎年選んでいます。「イタリアのものづくりに学ぶ意味的価値創造とミドルウェアとしての中小企業診断士の新たな役割」などが受賞しました。



リスキングによる実践的な「技術」の獲得

日本工大MOTの1年間の質を評価するのは、ほかの誰でもなく修了生の皆さんです。企業であればCS 一顧客満足度というべき修了生の満足度を、日本工大MOTはなにより重要視しています。

ものづくりから

中小企業経営のリアルな姿を学べる

大手鉄鋼メーカーから中小企業に転職することを決意した際に「中小企業のこと」を学ぶ必要を感じ、適当な社会人大学を探しました。日本工大MOTは『中小企業技術経営』にフォーカスしており、科目名を見た瞬間「これは！」と直感的な閃きがありました。企業人にとって、1年間で短期集中して学べること、少人数の特性を活かして実務経験が豊かな教授陣と深く接することができる魅力と、学生の年齢層が幅広いことも安心材料となりました。

自らの血となり肉となる知識を得る1年間

『中小企業技術経営』という漠然とした概念の具体化、思考の現実化をすることができました。合わせてテクニカルな知識だけでなく、『志』や『自らの目指すものとそのアプローチ』といった『人として大事なこと』を学ぶことができました。会社経営（ヒト・モノ・カネ・技術・情報）での悩みはここで学んでいなければ、乗り越えられなかったものがたくさんあるとも感じています。1年間で終わってしまうことが残念に思えるほど、知識欲が満たされる濃密な毎日でした。



富田 一臣さん
2019年度生
探傷装置製造メーカ 経営



越野 曜さん
2019年度生
ソフトウェア開発

修了生の 声 VOICE

サービス業から

MOTで得たこと

約10年間、セミナー講師・コンサルタントとして活動してきましたが、経験に頼った仕事の進め方に課題を感じていました。また、専門であるマーケティングだけでなく、幅広い知識を体系的に学びたいと考え、日本工大MOTへ進学しました。本大学院では、理論による実務経験の裏付けだけでなく、自分の専門領域では気づけなかった新たな視点や知識にも数多く出会うことができました。実務経験豊富な教授陣や多様なバックグラウンドを持つ仲間との議論は、こうした発見を後押ししてくれる貴重な機会でした。

修了後にMOT / 診断士をどのように活用しているか

理論的な知識は、現在の中小企業診断士としての活動に大きく活かされています。創業支援や経営相談、公的機関での相談員・セミナー講師など、活動の幅は拡大しました。また、力を入れてきた女性起業家支援においても、診断士という資格の裏付けにより、信頼をより強く得られるようになったと感じています。1年間ともに学んだ仲間とは、修了後も仕事や情報交換を通じて交流が続いており、互いに刺激を受けながら成長し合える大切な存在となっています。



櫻井 法恵さん
2024年度生
アウトゴーイング株式会社 代表取締役



林 康明さん
2020年度生
信用金庫勤務

IT企業から

実践形式の知識・スキル習得

会社が次期ビジョンを考え始める中で役職が変わり、自分のアウトプットを変えていく必要性を感じていました。今までの職場の経験だけではインプットが不足していると考え、知識とスキルを体系的に身に付けたいと進学を決めました。本大学院では、実務経験のある教授陣・他業種の同期生からのインプットに、各授業でのグループワークや自社を対象にした課題のアウトプットも多く、短期間に実践形式で学ぶことができました。

経営者視点で現場から変革を

これまで一社員という視点から会社や仕事を捉えていましたが、経営者の視点、同期生である他業種の方々の視点を得たことは、私の中で大きな変化でした。課題を認識しながらも目の前の仕事に追われていた日々から、あるべき姿と目的のために自分の行動を変え、周りを巻き込んでくようになりました。修了はゴールではなくスタートだと思っています。これからも継続的に学び、実践し、現場から変えていく力に変えたいと考えています。

金融から

MOTの講義に集まる素晴らしい学友

信用金庫に勤務し、10年近く前からコンサルティング業務に従事しています。私の職場には毎月500件近くの経営相談が寄せられますが、業種は様々で内容も多岐に及んでいます。これらの相談に少しでも高い確度でお答えし、相談者の方により高い満足を感じていただくために、MOTで学びなおすことを決めました。学友はそれぞれが何かしらの専門知識をもつメンバーでした。受講を通じて学友と各自のノウハウの共有をできたことも貴重な経験です。新たな生涯の友を得ることができました。

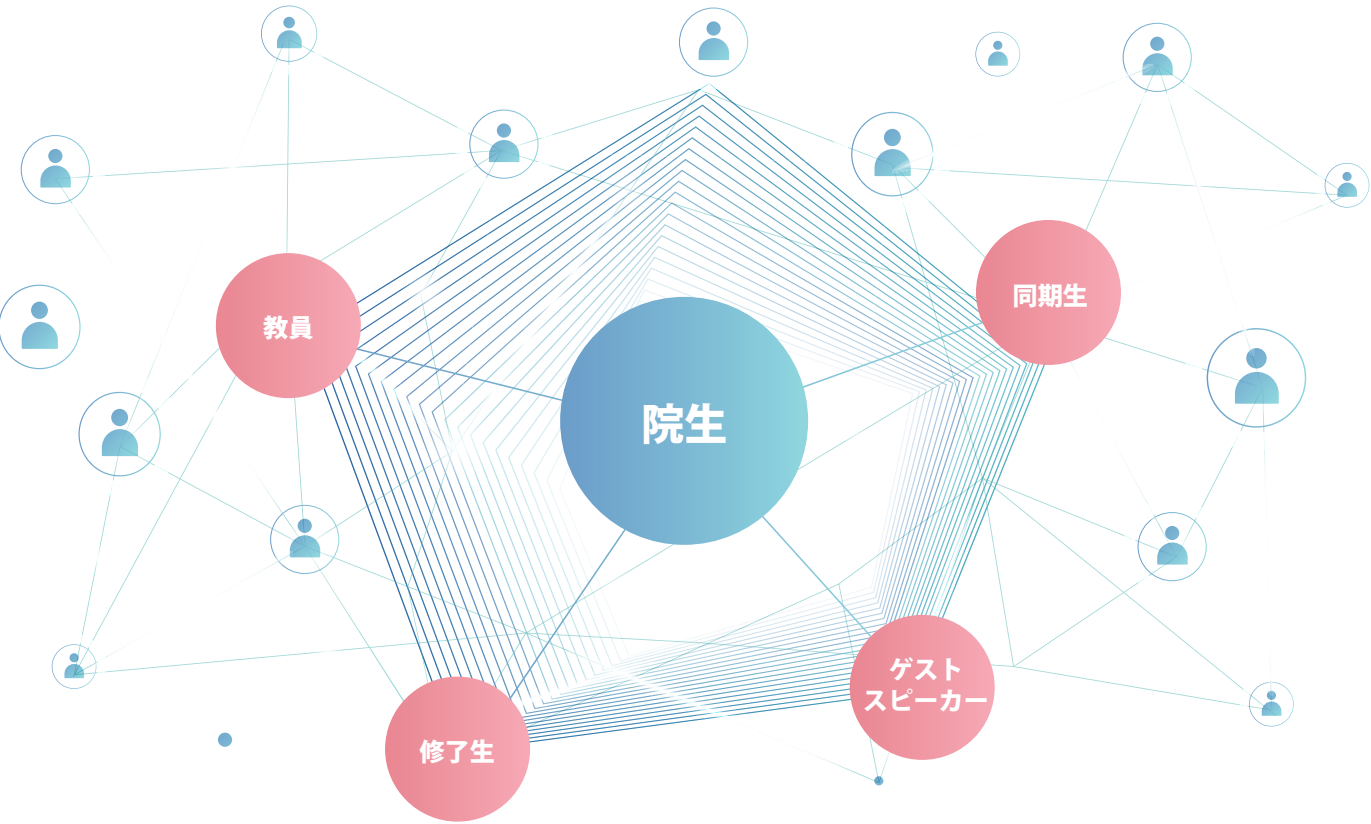
実務経験が豊富で頼りになる講師陣と、元気がもらえる優しい職員の皆さん

MOTの講師陣は専門分野の研究者の方や、コンサルタントとして実務経験が豊富な方ばかりで、卒業後に実際に使えるメソッドを数多く与えてくださいました。私の通学スタイルは、本職の通常勤務と平日夜間・週末の通学だったので、常に睡眠不足の1年間でしたが、職員の皆さんの細やかな気遣いは大変ありがたいものでした。MOTに通った1年で、人生が豊かになったと実感しています。

修了後は強力な人脈と共に始まる、次ステージ

修了生が学び合う日本工大MOT倶楽部

MOT倶楽部では、修了生、教員や外部専門家が講師となり注目領域や関心のある内容について講演・話題提供し、参加者がディスカッションを行う勉強会や見学会を開催しています。修了生と教員中心の会のほか、外部に公開している会もあります。このように、修了後もさまざまな「繋がり」を持てる機会を設定しています。MOT倶楽部からは、各種の研究会や勉強会などのイベント案内が届きます。同期生の「ヨコ」の繋がりだけでなく、先輩・後輩修了生との「タテ」の繋がりも機会も多く設けられています。



中小企業イノベーションセンター

本研究科修了生などのビジネスイノベーションを支援する組織です。とくに、修了生の多様性を活かした相互連携による新技術・新製品の開発や新事業・新業態の創造、コンサルティング能力向上等のエコシステム形成にもつなげる支援事業を行います。

「互学互修」による「生涯学習」環境の形成

日本工大MOTでは、院生・教員が中心になり、継続的な「互学互修」を実現しています。院生・教員が主体的に様々な会を立ち上げて、日本工大MOT関係者だけではなく、地元の中小企業や、地域金融機関、研究機関・学会などの外部関係者の方々と交えた活発な意見交換を通じた学び合いの場が、生態系（エコシステム）として形成しています。さらに、研究会での多角的な議論を踏まえて、学会発表に挑戦する院生もいます。神田キャンパスでの対面参加（終了後には懇親会）による人的ネットワーク形成と、自由度の高いオンライン参加を組み合わせる実施しています。代表的な会を以下に掲示します。

未来共創研究会	技術・企業・社会の展望と価値創造をテーマに開催。日本価値創造ERM学会と共催し、異業種交流の場
アジアビジネス研究会	アジアでビジネスを展開する修了生が集い、情報交換や研鑽を通じて新たなビジネスチャンスを発見する場
SME人事組織研究会	中堅中小企業の人事責任者が人事・組織課題を議論しながらネットワークを構築
2050年の経営を考える会	全員がソーシャルアントレプレナーとして経営に携わる時代を先取りし、新たな切り口で経営を考える活動
MOT起業塾	修了生が繋がり、起業に必要な知識・手法を学び、社会的意義のある新しいビジネスの事業化を実現する場
MOTサロン	技術経営を軸に学び・交流・実践を結びつけ、新しい事業やアイデアが生まれるコミュニティ

働きながら、1年で修士号を取得

修業年限1年制

効果的かつ集中的に学修することにより、30単位以上および特定課題研究4単位の計34単位を修得し、1年で修了できるよう構成されています。

コース設定

技術経営系の「中小企業経営コース」、「事業創造コース」と、中小企業診断士第1次試験合格者を対象とした「中小企業診断コース」が設定されています。各自の所属コースは、出願時の希望に応じて入学時に決定されます。コース毎の履修モデル（受講科目の組み立て）は二次元コード（本頁の右下参照）によりサンプルをご確認いただけます。

4学期制

春、夏、秋、冬の4学期制です。各学期の期間は以下の通りです。

春学期

（4月～7月）

15週間の授業

夏学期

（8月～9月）

6週間の授業と
夏季休業

秋学期

（10月～1月）

15週間の授業と
年末年始休業

冬学期

（2月～3月）

6週間の授業

注）中小企業診断コースは、上記の期間と異なる場合があります。

授業科目

授業科目には、基幹／総合・発展科目とコース基本／重点科目（それぞれ「基礎」、「応用」、「発展・ケーススタディ」の三段階に区別される）と、特定課題研究があります。

修了要件

以下の（１）、（２）、（３）で合計30単位以上と特定課題研究（必須）4単位の総計34単位以上を修得した上で、最終試験の合格をもって技術経営修士（専門職）の学位を授与します。

- （１）コース選択必修対象科目13科目中、14単位（7科目相当）を取得
- （２）コース選択必修対象科目において必要な単位を含め30単位以上を取得
- （３）技術経営プロジェクト研究（特定課題研究）Ⅰ・Ⅱに合格

注）中小企業診断コースは、同コースの演習科目はすべて必修です。

「履修モデルサンプル」を右側の二次元コードから参照してください。

履修モデル サンプル



学び続ける姿勢を支援する制度

修了生優待聴講制度

修了生優待聴講制度とは、修了生が、在学時には1年制の制約から受講できなかった科目、もしくは、修了後に新設された科目に限り、期間、科目数の一定条件のもとで聴講（無償）することを可能とする制度です。

目的・利点

- ・修了生の修了後の継続的な勉学を支援し、MOTノウハウの一層の強化、拡大をはかる。
- ・修了生の聴講が増えることにより、年次の異なる修了生、在学生相互の交流が促進される。

受講規程

- ・受講できる科目：申請時までには単位を取得していない科目（修了後新設された科目を含む）
- ・受講できる期間・科目数：修了後3年以内、累計5科目までとする。
- ・2単位（15コマ）科目も1単位（8コマ）科目も、1科目としてカウントする。
- ・聴講科目となるので、単位取得、成績評価はなしとする。

科目等履修生制度

日本工大MOTの特長である1年制は、忙しい社会人にとっては大きなメリットではありますが。しかしその半面、多忙のために1年間継続しての通学が困難であるとのご意見もあります。そこで、「もう少し余裕を持って修学できないか」など、多忙な社会人のご要望に応え、科目等履修生として入学前に履修を開始することで、1年制の枠にとらわれず、余裕を持って学ぶことを可能にしました。

対 象

- 科目等履修生とは、非正規生として、日本工大MOTにおいて単位の修得を目的とし、科目を履修する者をいいます。次のような方が科目等履修生として学んでいます。
- ・多忙なため、1年間の修学期間での修了が不安で、入学後の単位修得に余裕を持ちたい方（入学後の単位として認められます）
 - ・入学後も多くの科目を履修されたい方
 - ・入学を前提として、入学前に体験的に履修されたい方
 - ・特定の科目のみを学びたい方

特 長

- ・正規課程の入学に先立ち、入学前から履修を開始できます。
- ・正規課程の1年間に比べ、長い期間で余裕を持って学ぶことができます。
- ・科目等履修生として入学前に修得した単位は、本学の承認を経て最大15単位まで入学後の単位として認められます。
- ・履修チャレンジ制度を併用することで、1科目に限り無料で履修することができます。

履修チャレンジ制度

日本工大MOTにご興味がある方に対し、本大学院の授業を実際に院生の立場で体験していただくことを目的に、1科目に限り無料で受講できるのが「履修チャレンジ制度」です。「授業見学」だけでは得られない、授業の魅力を体験、認識してください。

要 件

1. 社会人大学院、日本工大MOTに興味を持っている人
2. 本大学院院生の立場で真摯に学んでみたい人
3. 原則（やむを得ない場合を除く）として、1単位科目の場合は全8回、2単位科目の場合は全15回出席可能な人
4. 実務経験（アルバイトを除く正社員、派遣社員等）5年以上の人（年齢条件なし）

特典内容

1. 1人1科目に限り、無料（検定料、登録料、授業料無し）で履修できます。
※授業における教科書はなく、オリジナルの教材を無料で配布します。ただし、科目によって有料教材を利用する場合においてのみ、個人にてご負担いただきます。
2. 履修終了後に、履修された科目に対して、定められている評価方法に基づき評価し、その成績を受講者へ通知いたします。一定の評価を得た場合には単位を付与します。
※評価方法については、ホームページ上の各科目のシラバスに記載します。
3. 付与された単位は、その後に本大学院へ入学された場合に取得単位として認定されます。
※本制度にて付与された単位を含め最低8単位履修（科目等履修生制度にて履修）した上で入学した場合には、入学者に特別奨学生として33万円の奨学金が給付されます。

